

第5回富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

日時：平成22年2月25日（木）

午前10時～午前10時40分

場所：富田林市役所介護認定審査会室

<出席委員> 吉川委員、大西委員、前川委員、山内委員、湯口委員

事務局	<p>第5回フォローアップ会議を始めさせていただきます。早朝からお集まりいただきありがとうございます。4回目は11月中旬ぐらいで、そこから3ヶ月くらい間が空いてしまったんですけれども、その間も、報告書案の調整などしていただいてありがとうございました。</p> <p>今日は、報告書案の最終の再確認をしていただいて、報告書として確認をとっていただいた後で、11時から30分なんですけれども、市長の報告会として時間を取っていただいておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>今日は、傍聴の方はおられません。前回と同様、録音させていただきますので、その点もよろしくお願いいたします。資料につきしては、今の最終の報告案と次第でございます。それでは、座長よろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>第5回ということで、今日ここまで来れたことは皆さんのおかげだと思っております。今、事務局からお話がありましたように、とりあえず資料そのものについて、確認作業をして、あとは作戦会議、ということにさせていただければと思いますが。</p> <p>基本的には、皆さんのご意見をまぶしたような形になっています。</p> <p>今、何かを言えば変更可能なのでしょうか。ひとつだけ、形だけのことなのですが、1ページ目の4行目「」の一つ目が付いていて、二つ目が付いていない。</p>
事務局	<p>はい、修正します。</p>
委員	<p>ここは「」が要らないのでは。</p>
座長	<p>二つ目も付けるか、両方取るかですね。</p>
委員	<p>両方付けておいてもらったら、「行財政の効率化」と対比できていいね。</p>
事務局	<p>「富田林が魅力あるまち」としておいてよろしいですか。</p>
委員	<p>はい。内容的にはこれ以上言っても、それぞれの考え方があるので。</p> <p>添付資料ですけどね、案というだけで、これが最終ということではないんですよ。別紙1、別紙2は、基本計画に書いた「これからの施策の方向」というのが、両立しているということと、政策推進課が取り組むことがメインポイントで、僕自身は、ここに書かれている具体的な、20年度、21年度に書かれているようなことでは困ると、い</p>

	<p>うような部分を。だから、この中身を会議として認めたのではない、と。フォーマットだ、ということで理解してくださいね。それがひとつですね。</p> <p>工程表は、ぱっとみたら全体を網羅しているような気がします。</p> <p>あと、別紙3は、定型フォーマットなんですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員	<p>このどこに1章の評価を書こう、というのは考えていらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>これはシステムのパッケージから出てきた定型の様式ですので、新たに項目を追加するとなればカスタマイズの費用的なものが出てくるんですけどもね。</p> <p>前の会議のときも説明させていただいたんですけども、テキストで評価を入れる部分がありまして、私どもの指示で3つのしくみづくりについて、一定こういう基準で、自己評価して、しくみづくりの評価を文字で評価に入れるというような、システム自身をカスタマイズするのは大変なんですけれども、運用としてこういう形で評価をいれるようにしたいなと思っております。</p>
委員	<p>理解としては、事業評価表を書くときの指図書に書いておくということですね。</p>
事務局	<p>そういうことです。</p>
委員	<p>その結果をどこに入れるんですか。</p>
事務局	<p>一番下の「評価」欄です。</p>
委員	<p>コスト分析表について、なぜ「予算」と「実績」ではなく、「予定」と「実績」という言葉が出てくるのかと思って。あと、分類のところも、これが一般的なんでしょうかね。</p>
事務局	<p>これも、パッケージの中に組み込まれた言葉なんですけれども、一定の情報を入力すれば、勝手に出てくるということではないんです。例えば人件費の情報を入れれば、その事業に対する人件費も含めたコストがなんぼという風にでてくるという、パッケージの一様式なんです。</p>
委員	<p>これ「予定」と書いていますが、「予算」が出てくるんでしょうか。企業なら標準原価計算というのがあって、実際、比較というのがあるとは思いますが、こういうところだったら「予算」じゃないんですか。</p>
事務局	<p>目標の入力をするときに、今おっしゃっていた「予算」を引っ張ってくるようになってはいるんですけど、「予算」を全て反映させるだけではなくて、人件費というのは平均単価から人数をかけたり、元の数字を入れたりしますので、全くの予算とは違う数字も</p>

委員	<p>「予定」の数字という、平均単価で割り戻した数字も出てきますので、「予算」と書くと、その数字と合わないとおかしいんじゃないかという話も出てくるかと思うので。</p> <p>でも、人件費というのが別にあるわね。</p>
事務局	<p>そうですね、でも人件費を数字で持ってくるとまたややこしくなってしまうので、課長職でしたらこの金額で、その人が何人います、という平均単価の数字を入れようと思って。そういうあたりで名称を変えている部分があります。</p>
委員	<p>ただ、実際は予算自体がそうなって、人件費が反映したものでないと、本当はいけないわけですよ。</p>
事務局	<p>予算の人件費をそのまま放り込めたら問題ないんですけども、行政評価で評価する事務事業と予算事業がぴたっと1対1で合っていて、それぞれに人件費が予算化されていたらいんですけど、1対1ではなく、1対nとかの場合には、事業に人件費を割り振らないといけない。割り振る表というのが別にありまして、ある事務には3分の1の人件費がかかっている、これには4分の1がかかっている配分表があって、それが人件費を割り振って、それぞれの事業に分配するということで、予算が直接入るという意味ではないので「予定」という言葉を使わせていただいております。</p>
委員	<p>一般企業では、人件費を割り振った計算が予算になっているのが常識ですが、人件費が入っていない行政の予算ということで、今、課題になっていると思うんですけどね、まあそれはいいです。</p> <p>それと、事務事業評価ですけど、他に政策評価とか他に段階がありますよね、政策と施策。そういうところでは、この報告書を反映する余地がないのか、事務事業だけですか。むしろ、政策、施策のところに反映しないといけないのではないですか。政策のところからいかないとね。</p> <p>なぜかと言うと、今日市長にお話ししようと思っていたのは、ニュース聞いていたらローソンがかなり外人入れているという話だった。それは、よく店で見ますわ、いや、違うと、幹部職に入れていると。2割くらい入れるのが目標であると。なんでか、日本人だけで固めたら発想が固まってしまうから。結局、第一章というのは、市民が参加するだけでなしに市役所自身の発想がいろんなところへ対応していくために、柔軟性を保つために、こういうことやと思うんですよ、政策評価とか。</p>
事務局	<p>出来ると思います。事業のひとつのかたまりの施策単位の評価も、システム上当然あって、評価シート自身はほとんどこれと同じような形なんですけれども、それが施策単位で評価するという。そのレベルで施策を包含する事業の評価を、総合的に判断してしくみづくりを評価するということですよ、おっしゃっているのは。</p>
委員	<p>ちょっといいですか。</p>

委員	僕はこれだけです、だからそれを一応汲んでおいてください。
事務局	分かりました。
委員	<p>今日はまとめの日なので、もっとやり残したこととか、思い残したことはあると思うんですけど、ちょっと分けて議論してね。今おっしゃっているようなことは、今回議論し切れなかった内容だと思うんですけど、これからも大切なことだと思うので、その辺は整理しておいた方がいいのかなと。</p> <p>ひとつは10年という枠組みの中で、もう3年が過ぎているから、今年はこうして、来年はまたこういう風に変えよう、という話は、いろいろ問題が出てきたとしても、それこそ大きな負担になるから、ある程度我慢して、やっていくべき。何年か経年でやってみないと分からないというところがあると思うのでね、そういうところを確認して、一番回りやすいようにしていいたら良いと思いますけど、おっしゃっているような事業評価表とか施策評価は、大きい枠組みで議論していくわけだから、当然出しやすい話ですよ、次年度以降でも。これを続けていっていいのかなどうか、そこらへんは少しね、この会議として、第4次総計に沿ってこれをやらせたら、非常に不具合が出てくるとは思うけれども、ある程度全然だめだったら変えたら終いやけど、一生懸命やってくれて、また変えたら大変やなというようなところで、変えたらしたら今から来年にかけての間しかないと思うんですね。そういう意味合いで、何点か言わせてください。</p> <p>ひとつは、非常に細かい話です。技術的なことで、4ページの図で縦系と横系が編み込むような形になれば嬉しいなということと、もうひとつは、前にも言ったと思うんですけど、第一章の政策推進課を中心としたこの事業を「具体的事業がないため未検討」じゃなくて、各課は事業をやって年度経過を見ていくので、施策の第1章もちろん予算も付いている部分もあると思うので、第2章と同じようなフォーマットにできないのかなと。ある人の意見では、難しいんじゃないかということもあったけど、僕は出来ると思うんです。</p>
委員	<p>それも一応我々の結論では、別に扱おう、というね。何が別かと言うと、第1章については、基本計画の「これからの施策」というのを目標においてやりましょうと。第2章については、事務事業をベースにしましょうと、一応、そう言ったと思うんです。</p> <p>ただ、今おっしゃるように各施策の方向にもやろうと思ったら、何か事業は出るはずだから、そういう意味では、来年はひょっとしたら、「広報誌やインターネットの有効活用」のところに政策推進課が主導となって、あるいは調整して、具体的にこんなことをします、というのが出るかもしれません。そしたらそれを事業として、具体的な対策としてそれを書いてもらったら。</p>
委員	<p>例えば、フォローアップ会議もどこかに入ってきているはずで、それは予算が付いているし、その評価もできるわけなので。</p> <p>もう一点、今は22年度までしか入っていませんが、10年分が裏表くらいで収まるようにしないと、膨大になっても仕方ないし。</p>

委員	最近の3年分だけを載せるようにするとか。
委員	いや、全部載せられると思いますよ。
委員	まあ入れたほうが良いよね。
委員	そういうことをお願いしたいなと。
事務局	すみません、申し訳ないんですけども、修正部分だけ、先ほどの分以外にあるかどうかを確認させていただいてよろしいですか。
座長	ふと思ったんですけど、この「PDCA」って、皆さん大丈夫ですよ。括弧して、「Plan-Do-Check-Action」と最初のところだけ一箇所入れておくという手もあります。
委員	それは入れておかないと、分からないと思う。
座長	そしたら、10ページの部分に修正をお願いします。
事務局	はい、分かりました。
座長	他、大丈夫ですか。
事務局	それでは、今いただいた2点は修正させていただきます。
座長	これはこれで良いと思うんですけど、市長さんに追加でお願いというか、考えていることを表明するとしたら、フォローアップ会議と、それを受けての政策推進課のフォロー自体がPDCAになって、次回のフォローアップ会議にチェックしていくという、そこを、ローリングじゃないけど、流れがあるという話と、あと、出来れば、これは全職員さんの目に届くように、何らかの形で。そういう意図を皆さん潜在的にはお持ちで、何となく職員さんに見てもらおうような書き方もしているのかもしれない。
委員	7ページに書いてあります。「④報告 全ての職員に評価作業や内容を伝え、意見交流を行う機会をつくる。」
座長	ここにもほとんど書いてあるけれども、念のために申し上げますと、この報告案自体を周知するように載せてほしいと。
委員	それは、事務局のほうで判断されて回覧されたらいいわけですよ。
事務局	それは市長に言うておいていただいても結構ですよ。職員に周知するように徹底して

	ほしい、と。4月になったら新人職員も入ってきますので、そういう研修の中でも使わせてもらおうかな、とっております。
委員	こうしている、というのがすごく大きなメッセージですね。
事務局	そうですね。
座長	他の市町村でこうしているんですかね。
委員	僕はあまりやっていないと思いますね。だって公募委員を選ぶということ自体、まだ一般的ではないですよ。
委員	そういうのは、「ぎょうせい（出版社）」の編集部に聞いたらよく知っているんじゃないですか。
事務局	進んでいるところの話は知っているでしょうけど、統計的にどれくらいやっているかというのは掴んでいないと思いますね。
委員	この10年の工程表なんですけども、見た感じは良くできているように思うんですが、ちょっとどう読むか教えていただけますか。
事務局	<p>文章中に入っているものを図式化したということなんですけども、まずは大きな流れから切り取って、サイクルになっているというような表になっています。</p> <p>まず一番大きな流れは、ここで議論されているように次期総合計画の出発点と、現行は19年から28年ですので、29年以降が次期プランになるわけですけども、その策定期間が上の表で言ったら、下から二段目のところが第5次総合計画策定期間になります。</p> <p>大きな10年サイクルで言いましたら、総計の始まる年度にプランが出来て、その総計の実現に向けて10年間していくと、その内容の評価がまた次期プランに反映するというのが、上から順番にいったる段落としての10年のサイクルになると思うんです。</p> <p>その中でも、例えば21年度のところに、「(*4)」と書いてあります。10年のサイクルの中身が、PDCAだと。でも、1年1年を見れば、例えば21年を切り取ってみれば、点線の矢印の下の括弧のところに、毎年事業があって、その事業は実施計画の1年分なんですけども、実施した内容について、自己評価する事業評価・施策評価があるんですけども、その辺の資料などを、分析し、評価し、検証するフォローアップが毎年開かれ、報告書となると。</p> <p>その報告書をももちろん市民にも公表し、職員にも公表して、その1年のサイクルがあると。毎年のフォローアップの1年サイクル、右の枠の3年の実施計画の1年の分なんですけど、厳密に言ったら。その右は、実施計画のローリングする3年間の1年分が連動しているという書き方をしたつもりなんですけども、分かりにくいでしょうか。</p>

委員	よく出来ていると思います。
事務局	10年、3年、1年というのが、それぞれに関連しあって、大きな歯車と中くらいの歯車と、一年後との小さな歯車が噛み合っ、大きく10年で回っていくというのを図式化した形です。
委員	①の左側の番号はどうなんですか。番号がずれていますね。
事務局	直します。
委員	「しくみづくりに関わる条例等制度の構築」というのが入っているところがいい。これがつながってこない、しくみとして定着していかないからね。よく出来ている。
事務局	すみません、10ページの①のところで「～第1章“の3つしくみづくり”と、～」あるところ、「“」の入れる位置を間違っているのは、これも今、修正しています。すみません、申し訳ないです。
委員	今は良いですけど、次回から会議の時には、「別紙2・工程表」は、一番表に。
委員	順番からいったら、別紙1になった方がいいんですよ。流れと一緒に合ったほうがいいから。
座長	だいたいこんなところですね。それでは会議を終了します、ありがとうございました。
事務局	第5回のフォローアップ会議はここで締めさせていただきます、21年度のフォローアップ会議を、一応、ここで締めさせていただきます。8月から半年、長きに亘り、ご議論いただきましてありがとうございました。